

聖書の成立を知り、解釈を学ぶ

## 聖書神学

### ●聖書に、何が伝えられているのか

聖書学/聖書神学とは、私たちの礼拝の中で朗読される聖書に、何が伝えられているかを解明する学問です。説教は、教会によってたてられた説教者が、聖書に基づいて語る時に、神の言葉として聞かれます。説教者が自分の思いを語るのではなく、聖書が証しするキリスト御自ら語ってくださいます。

### ●勝手な読みこみを批判し、吟味する学問

しかしどのようにして、説教者の勝手な読みこみと、聖書それ自体が聖霊によって証言する主の御心を聞き分けることができるのでしょうか。聖書学/聖書神学は、聖書のテキストを、それが語られた歴史の中に戻し、本来どのような歴史の中で、何を告げようとしたものなのかを解明します。またそのテキストが、どのように伝えられ、解釈されてきたかを学びます。それによって、私たちの読みを批判し、吟味するのです。学んだ人は、聖書の成立や伝承の歴史を知り、釈義の手法を身につけ、語学、文献学、文学、歴史学、考古学といった財産を得ることになります。



### ●「旧約聖書釈義」の授業紹介 聖書を歴史のコンテキストの中で読む面白さを学びます。

「旧約聖書釈義」は釈義について学ぶ授業です。釈義とは、聖書を読み、聖書がわたしたちに何を伝えようとしているのか、を様々なアプローチで考察、決定することです。いわば、説教の土台ともいえる重要

な学びです。

授業ではそれぞれのアプローチについて、また何故、このアプローチが有効なのかを、学生が発表します。そして、大住先生による学生への質問や解説が行われてより学びを深めています。

神学校の学びが実際に教師となったときにどのように役立つのか、何故、神学を学んでいるかを実感できる授業です。



学2013年度

安藤果菜

神の真理を総合的に明らかにし、神讃美へと至る

## 組織神学

### ●教義学を中心に、倫理学、弁証学の三分野から成る

組織神学は、神の恵みの真理をできる限り深く解明し、それを責任的に証言しようとする学問です。「教義学」は、神の啓示を証言する聖書に基づき、父・子・聖霊なる三位一体の神とその御業を、体系的、組織的に考察します。「倫理学」は、キリスト者と教会が具体的な生活の場でのように振る舞い行動すべきなのかを考察します。そして「弁証学」は、現代社会にあってキリスト教に向けられるあらゆる

疑問に対して、福音の真理を明証しようとするものです。組織神学は、それら相互の関連を総合的な見地から明らかにし、一貫した整合的理路を見出そうとするものです。

### ●教会とキリスト者を支えて、神を讃美する

神学は人間の業ですから、誰が試みた神学も完全ではありません。常に「より深く、より明らかに」祈りをもって神の真理を解明し続ける旅人の神学です。そのようにして人類に、「世の光」としての神の真理を伝え、教会とキリスト者の信仰を支え、神の御名を讃美します。組織神学は知的興奮が神讃美に至る素晴らしい学問です。



### ●「組織神学」の授業紹介 現代社会に福音をどう宜く伝えるかという課題を掘り下げます。

組織神学Ⅱbの授業では、キリスト者として社会の中でどのように生きていくのか、過去から現代に至るまで人間がどのような倫理基準をもって生きているかについて学んでいます。今、教職課程の授

業を受けていますが、いじめや不登校、家庭、学校、社会の人間関係の中で傷ついて自分の中に閉じこもった生徒たちが再び生きようと思うためには、やはり人との関係が必要です。キリスト者としてどのように関わることができるのか模索中ですが、大事なことは聖書が証している神を知ること。組織神学Ⅱの授業が答えの方向性を示してくれている気がします。



学2013年度

菊地美穂子